

2021年2月臨時運営委員会資料（4）

——アンケート結果から見たこれからの「じゃおニュース」にむけての提言——

2021年2月22日

じゃおニュース・スケジュール表発行担当 今村・竹内・土屋

1.現状確認

- ① じゃおニュースはすべてHPに掲載されその閲覧統計から会員数の約70%が主にパソコンで閲覧している。
- ② 発行頻度は現状維持でよいとするが多数意見。記事の分量は「現状で良い」が約半数、15%は「今より短くてもよい」と回答している。
- ③ 興味ある記事として、「地域じゃおの活動報告」が一番多く、以下「会員だより」「特別寄稿」、「会員動向・運営委員会報告」、「じゃおサロン予告」と続き、身近な記事ほど読まれている。
- ④ 「いつも楽しみにしており、隅々まで読んでいます」が回答者の1/3に対して、自分に関係のある記事のみ読む人が1/4。

2. これからのじゃおニュースにむけてアンケート回答者から寄せられた重要意見

- ① 「記事の執筆を依頼されるのは負担に感じる」18%、「会員だよりの持ち回りでの執筆」への反対、輪番制で執筆した記事は頼まれて無理に書いたものが多く、面白くない（会員の自慢話が多いと感じる）
- ② 書きたい人が書いたものだけを掲載したほうが記事の質が上がる。
- ③ 「じゃおニュースの目的・狙いを明確にした方が良い。
- ④ インパクトのある表題を期待する。編集にもっと工夫が必要。
- ⑤ 会員だよりで感銘を受ける記事が多々ある。
- ⑥ 本来ニュースがある時だけに書くほうが良い。
- ⑦ メール配信を希望8%、地域で希望者数の差が大きい。
- ⑧ じゃおニュースは地域のブログに移行。月1回の掲載ではタイムリーな発行が確保できないので、ニュースの目的、狙いを考え直した方が良い。

3. アンケート結果をもとに具体的に実行できそうなこと。

- ① 3月号のじゃおニュース（HP掲載）の、内容目録と簡単な紹介をじゃおメールで発信して、HP閲覧者を増やす工夫をする。（これまではHPにアップしましたとのメールであった。
- ② 「会員だより」として、自由寄稿を募集するが、それ以外にもテーマをきめて寄稿をつのる。最初はテーマを編集側から用意して、それに関する記事を募集する。テーマ例として、「やってみたいボランティア活動」「美味しいと思った料理」「記憶に残る旅」、「私の故郷自慢」等…。

4. 編集関係者・会員諸氏の意見を聞きながら改善していくこと。

ニュースの目的の明確化：じゃお地域ブロック間に共通したテーマの掘り下げ。 他ブロックの行事の紹介と参加する方法、メリットなど。 外部団体との交流に役立つようなニュース、記事を載せること。

5. 編集委員からの意見：

- ① 投稿システムがトップダウン的な印象が強いので、ボトムアップ式に寄稿が増えていくような方法を、関係委員で議論していく。例えば、会員だよりは自由投稿にして、寄稿がない号があってもよいのではないか。
- ② 「じゃおサロン」予告記事・報告記事は、今後「じゃおニュース」に掲載せず、ホームページの「じゃおサロン」ページに掲載することで代替する。
- ③ 「運営委員会だより」は廃止し、ホームページに掲載している「議事録」をもって代替する。

—以上—